

(様式1)

令和4年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立墨田中学校
校長名	杉浦 伸一

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ 1年は、全教科において正答率が全国値を上回っている。・ 2年は、国語と数学において、昨年に引き続き正答率が全国値を上回っている。・ 3年は、国語、数学、英語において、昨年に引き続き正答率が全国値を上回っている。また、正答率を全国平均と比した標準スコアは、理科において昨年より0.4ポイント、英語において昨年より0.5ポイント向上した。	<ul style="list-style-type: none">・ 1年は、社会における正答率が目標値を上回らなかった。・ 2年は、社会、理科、英語において、正答率が目標値を下回った。また、標準スコアは、5教科すべてにおいて昨年より低下した。・ 3年は、社会、数学、理科において、正答率が目標値を下回った。また、標準スコアは、国語、社会、数学において、昨年より低下した。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ 1年の、iスコア平均を全国平均と比した標準スコアは、52.2ポイントである。カテゴリ別では、『学習習慣』が52.2ポイント、『学習意欲』が52.0ポイントとなった。・ 2年の標準スコアは、50.7ポイントである。カテゴリ別では、『学習習慣』が52.0ポイント、『学習意欲』が50.6ポイントとなった。・ 3年の『学習習慣』の標準スコアは、51.9ポイントである。	<ul style="list-style-type: none">・ 1年は、『学習意欲』の標準スコアにクラス間の差があり、その開きは最大7.2ポイントである。・ 2年は、『学習習慣』の標準スコアにクラス間の差があり、その開きは最大5.9ポイントである。・ 3年の『学習意欲』の標準スコアは、49.1ポイントである。全国値と比べると、「好きな教科や授業がありますか」のiスコアが0.2ポイント下回っている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ 授業における学習に臨む姿勢が、近年大きく向上しているとの評価を、保護者や地域、学校運営連絡協議会などから得ている。・ 『墨中スタンダード』の推進を柱とした取り組みによって、家庭学習の一層の定着が図られている。	<ul style="list-style-type: none">・ 自らの課題を把握し、見通しをもって学習する力の育成が不十分である。・ ICTの活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一層の充実が求められる。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) わかりやすい授業

「墨中スタンダード」を柱とし、教員一体となって授業改善に努める。特に次の5つの取り組みを重点とする。

- 目標の明示・授業1時間のまとめ
- 視覚的にわかりやすい授業
- 学び合いや対話的な授業
- 授業規律の徹底
- 家庭学習の充実

また、校内研修や指導教諭の模範授業、区中研、その他多様な校外研修の機会を通して、各教員が研鑽に努め、指導力の向上を図る。

(2) 学習の見通し・振り返り

生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れ、自主的に学ぶ態度を育む。具体的には、次の取り組みを重点とする。

- 各教科における学習カード等の活用
- 定期考査前の学習計画表の作成 ▶ 提出 ▶ 担任からの助言 ▶ 学習内容の改善
- 定期考査後の分析・練習
- 三者面談等を通じたフィードバック

(3) 補充教室の拡充

補充教室のさらなる充実を通じて、学習に対して苦手意識をもつ生徒に「わかる・できる」を実感する機会を与える。本校では次の補充教室を開設し、外部人材の協力を得ながら運営している。

- すみだ塾 ▶ 定期考査前の放課後補充教室
- 夏季補充教室 ▶ 夏季休業中の学習教室
- 放課後基礎・標準学習教室 ▶ 中学3年生を対象とした自習教室

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・これまでの取り組みをさらに充実させ、主体的に学習する生徒を育成する。
- ・GIGAスクール構想に基づき、ICT機器を活用した学習の充実を図る。
- ・各教科において、平均正答率が目標値および全国値を上回る。
- ・正答率を全国平均と比した標準スコアが前年より向上する。